

真庭市環境市民会議からの提言書

平成30年2月16日

(はじめに)

第2回真庭市環境基本計画の策定に向けて、市民や専門家、市外の方の意見を計画に反映させるため、真庭市環境市民会議を設置いただき、27名の委員のもと、計6回にわたり議論を行いました。

委員のメンバーのバックボーンが様々であり、議論も非常に幅広く行われ、多くの意見がでてきました。回を重ねる毎に方向性が明確になり、委員の思いが入った提言を作成できました。

最初に事務局から、様々な人の意見を集約した計画にしたいと言われました。このことも踏まえ、岡山県立大学の知恵も借りながら議論を行ってきました。会議では、真庭市の環境は何が特長なのか、何が問題になっているのか、などについての現状の洗い出しから、計画策定の目的、市役所・市民がどのような役割を担えばいいのか、どのような施策を柱に据えて環境行政を進めていくべきかなど様々な視点から議論を行ってきました。

市民会議の皆さんが共有したことは、市民は表向きには自然が豊かであると言いながらも真庭市の環境について知らなすぎる、行政も丁寧に情報提供してほしいということでした。市民が現状を知ること、学ぶことによって行動につなげていくということが必要であり、そのためには市役所が様々な情報をわかりやすく提供し、環境に負荷を掛けない生活スタイルを提案していくことが必要であります。

真庭市の環境をより良くしていくためには、市役所と市民が同じ方向性を持ち、それぞれが身の丈に合った役割を果たしながら、必要に応じて協働することが重要です。このような視点からここに第2次真庭市環境基本計画の策定への提言をいたします。

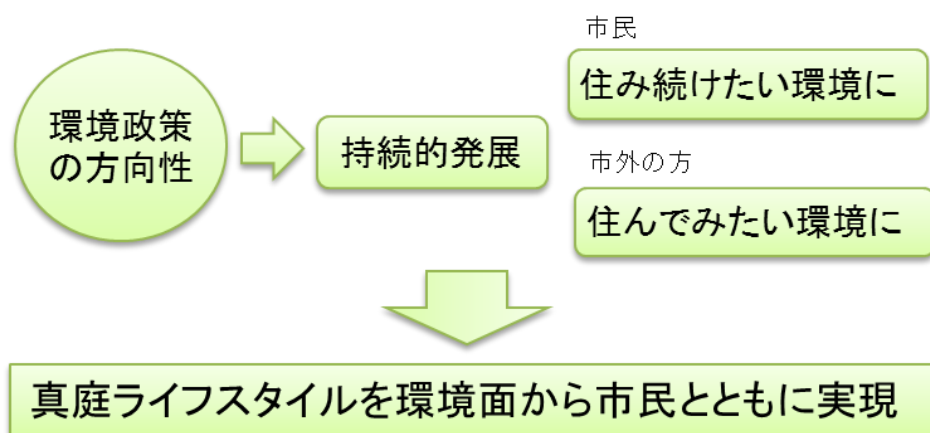
真庭市環境市民会議 委員長
西本 孝

(計画に取り組む前に)

岡山三大河川の一つ、一級河川旭川は真庭市最北部に源を発し、市の中央部を南北に縦断して流れており、南北に長い真庭市の自然を象徴する河川となっています。市民のみなさんに旭川の源流域に住んでいること、旭川からの多くの「恵み」を得ていること、旭川が岡山市など下流の多くの人々の生活も支えていることをまず理解してもらうことが必要であると考えています。また、飲み水だけでなく発電や農耕、畜産、さまざまな企業等でふんだんに使う水を、私たちが工場で作りに出すことなどできないのです。水は良好な自然環境があって初めて得られるもので、だからこそ真庭の自然環境が保全されなくてはなりません。

これらのことを計画の最初に記載し、その恵みを視覚的に理解してもらうためのイラストを挿入することを提案します。

(計画の目的について)



「水」「空気」「自然環境」は「有限の資源」です。これをいかに将来につなげていくのかといったことを考えていく必要があります。それには、行政の施策だけでなく、市民にとってどこまで経済的負担や生活様式の見直しが必要であるのか考えていくことが必要です。

真庭市は、新たな真庭市環境基本計画を、環境にやさしい「ひと」と「まち」づくりを推進していき、市民にとっては「住み続けたい」、市外の人たちにとっては「住んでみたい」と思える地域にしていくための計画であるという位置づけにすることを提案します。

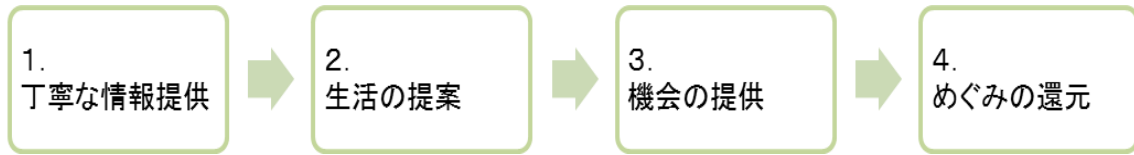
(計画の中でのそれぞれの役割について)

より良い環境をつくっていくためには、行政が計画的に施策を実施すれば良いというわけではなく、市民の生活スタイルも時代に合わせて見直していく必要があります。

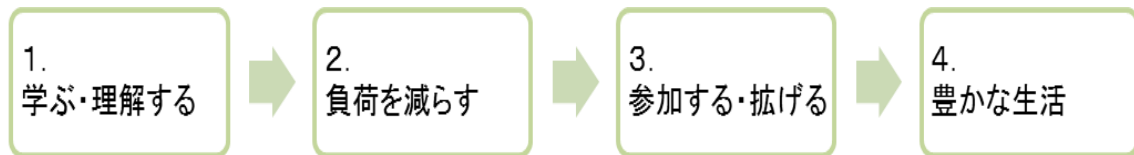
そのためには、生活の見直しの必要性を考える機会が大切です。

市役所が市民に対しての丁寧な情報提供を行い、それが最終的に市民の豊かな生活につながるという認識が重要であり、市役所・市民の役割については、以下を提案します。

【市役所の役割】



【市民の役割】



（環境行政を進めていくための柱について）

安心・安全の大前提は、空気・水・山・森・草原・川などの豊かな自然環境です。将来にわたって健康で快適な生活を送るためにも、それら環境への負荷をできるだけかけない生活が必要（安心・安全な生活環境の確保）です。

その上で、豊かな生活を送っていくためには、多様な生き物に囲まれ（生物多様性の保全）、地域の資源を活用・循環（循環型社会の形成）させるとともに、未利用の自然資源の積極的な活用（再生可能エネルギーの推進）を検討し、できる限り外からの資源に頼ることなく、将来にわたってわたしたちの生活を持続可能なものとしていくことが重要です。

環境と社会・経済・日常生活との関連性について理解を深め郷土を誇りに思い（環境学習の推進）、豊かな自然環境を認識し、多くの関係人口^{※1}に恵まれれば（関係人口の増加）、外部からの評価も高まりそれが地域の誇りにもつながっていきます。

以上のことから、下記の6つのテーマを柱に据えて、施策を推進していくことを提案します。

- ・安全安心（安全安心な生活環境の確保）
- ・循環（循環型社会の形成）
- ・自給（再生可能エネルギーの推進）
- ・共生（生物多様性の保全）
- ・郷育（環境学習の推進）
- ・交流（関係人口の増加）



※1 関係人口

定住人口と交流人口の間にあり、「農村に対して多様な関心を持ち、多様に関わる人々の総称」（小田切徳美明治大学教授）のこと。

（それぞれの施策の柱について）

施策の方向性、市役所や市民が実際に行うべき具体的行動について、以下のとおり提案します。

1. 安全安心（安全安心な生活環境の確保）

目指すまちについての提案

清らかな水、さわやかな空気の中で公害のない環境で生活ができるよう、環境に負荷をかけない暮らしを心がけ、安全・安心で快適なまちを目指していく。

主な施策とその方向性の提案

○清らかな水環境の保全

河川管理者（県）だけに頼らず、市役所や市民が自らのこととして環境を考え、市民・企業などとの協働により、清らかな水環境を保全していく。

○騒音・振動・光害・不法投棄などの公害対策

安全で快適な環境を損なう行為への対応として、法令順守への普及啓発を各種団体とも連携し推進していく。

○環境衛生施設の適切な管理運営

市民とともに資源化できるものは資源化していき、ごみの減量化を図るとともに、新たな最終処分場の建設を検討、災害時の廃棄物処理方法の検討、火葬場や墓地の適切な運営を行っていく。

具体的行動の提案

- ・上流に住む者として下流を思う、川のつながりの意識の共有
- ・合成洗剤の使用を極力減らし、石けんの使用の推進
- ・洗剤を使わないライフスタイルをPR
- ・レジ袋の有料化

2. 循環（循環型社会の形成）

目指すまちについての提案

従来からの見方や捉え方を変えることで、これまで未活用であった「もの」を地域内で資源として循環させることで、環境負荷の低いまちづくりを行っていく。

主な施策とその方向性の提案

○ごみの発生排出抑制の推進

マイバッグの持参や食品ロスの削減など真庭市民が身近に行うことができる4R※の推進を行い、ライフスタイルの変革を図っていく。

※4R

Refuse（リフューズ）、Reduce（リデュース）、Reuse（リユース）、Recycle（リサイクル）の4つの頭文字をとったもの。

○廃棄物の資源化の推進

様々な関係者との連携により、バイオマス循環システムを確立し、全国のモデル地域を目指していく。

○新たな資源の地域内循環活用の検討

地域に眠って活用されていない資源を発掘し、地域内で循環活用していくことを検討する。

具体的行動の提案

- ・ごみの課題、ごみ処理のコスト、リユース施設についての普及啓発
- ・分別やコンポストによりゴミの極力でない暮らしの提案
- ・ごみ袋代が高くなるかもしれないという危機感を持ってもらうような普及啓発
- ・地域自治会等による資源回収の推進
- ・市民・行政・企業とともにゼロエミッションの推進
- ・クリーンセンターの教育現場化

3. 共生 (生物多様性の保全)

目指すまちについての提案

豊かな自然から得られる恵みは、日々の生活を行う上での不可欠な構成要素であり、将来的にも持続的に得られるよう真庭特有の生物多様性の保全に努める。

主な施策とその方向性の提案

○生物多様性の重要性への理解醸成

私たちの生活は、自然から様々な恵みを享受していることを伝えていく。また、自然の恵みが実感できる市内独自の生活や風習、豊かな森が豊かな川を育むことなどを紹介し、生物多様性の重要性を市内全域に波及していく。

津黒いきものふれあいの里や真庭市オオサンショウウオ保護センターなどの環境学習の拠点施設を有効的に活用していく。

○里山などの二次的自然の適切管理

地域だけの問題とすることなく、外部の人材や資金の活用も検討しながら持続的な取り組みを検討し里山の保全に努める。

農業を営む住民だけでなく様々な関係者とともに、農地を適切に利用していき農地生態系を保全するとともに、鳥獣害の被害軽減を図る。

○生態系を活用した防災減災対策の検討

自然環境の保全は、防災減災にも資するという考えを積極的に取り入れて、自然生態系に配慮したまちづくりを検討していく。

具体的行動の提案

- ・自然からの恵みを理解し、保全再生を行っていくための「親と子が教えあえる環境」の整備

- ・保全する人（活動）、伝える人（教育）、利用する人（観光）との連携
- ・市民が合点のつきやすいインパクトのある普及の実施
- ・各地で実施されている市民活動の下支え

4. 自給（再生可能エネルギーの推進）

目指すまちについての提案

地球温暖化防止に向けた取り組みをはじめ、エネルギーの自給は災害対策に資すること、地域内経済循環による地域活性化が図れること、地域資源の活用による環境学習の場にもなりうることから積極的な推進を図る。

主な施策とその方向性の提案

○真庭市に適したエネルギー自給の検討

地域性を考慮した再生可能エネルギーの推進を検討するとともに、自治体新電力での市内電力供給を検討するなど地域内経済循環による地域活性化を目指す。

公共施設に太陽光発電設備などの電線網のみに頼らない仕組みの整備を推進し、災害対策にも資するエネルギー自給を検討する。

○地球温暖化防止の取り組み推進

「COOL CHOICE」など、国や県と連動した取り組みを推進する。

施設照明や防犯灯のLED化の推進やバイオマスボイラの導入など、真庭市らしい省エネ化を推進する。

○市民との共同事業の検討

岡山市での取り組み事例などを参考とし、地域やコミュニティで発電事業を実施し、その利益を地域に還元する仕組みを検討する。

具体的行動の提案

- ・再生可能エネルギーのポテンシャル調査の実施と公表
- ・バイオマス発電の稼働による利益などを市民に還元する方策の検討
- ・「みず」から地域による「コミュニティ発電」の実施検討
- ・一般市民参加の省エネ活動表彰の実施
- ・体験型の環境学習を充実させ市民意識の変容

5. 郷育（環境学習の推進）

目指すまちについての提案

持続可能な社会づくりの担い手をはぐくむ取り組みの「ESD」の視点を広め、様々な世代を対象とした環境学習を推進し、みんなが環境について考えるまちを目指す。

主な施策とその方向性の提案

○情報提供による関心の喚起

人と自然や地球環境と日常生活との関わりについて学ぶ機会を学校や公民館、地域

自治会等と連携して積極的に設けていく。

○行動変革と活動参加

多様な自然環境から得られる恵みを理解してもらえよう、様々な体験活動の場を提供する。

○人材育成

真庭市に ESD (持続可能な開発のための教育) の視点を広め、地域の資源を生かし、未来につなげるために行動する人材を育てていく。

具体的行動の提案

- ・様々な分野で活動している方も巻き込みながら、環境学習を実践できる「マルチ」に活躍できる人材の育成
- ・家族で考え行動していくことにつながる環境学習の実施
- ・学校の環境教育のカリキュラム統一
- ・イベント参加に実益のあるメリット検討
- ・各地域で環境教育のリーダーを育てる仕組みの検討

6. 交流 (関係人口の増加)

目指すまちについての提案

旭川にみる「水のつながり」を生かした上下流の住民・活動団体等の連携や交流を活性化させるとともに、真庭らしい地域の魅力を発信し、地元の地域資源を再発見と地域の誇りを高めていく。

主な施策とその方向性の提案

○自然資源の再発見・再認識

市内の希少な動物や植物を地域の人たちと再認識していく。

人と自然の関わりによって維持される二次的自然の素晴らしさを内外に発信し、自然保護への関心を高めていく。

○自然を生かした市外の方の関与機会の増加

岡山市との協定を踏まえて、岡山市と連携して実施していく。

地域の自然を、都市部住民や企業、専門家などの外部の人材の力も借りながら保全していく。

○環境団体・環境人材の育成

保全活動が持続的なものとなるよう、市内の環境保全に関わる団体や人材の育成を図っていく。

多様なジャンルの人々が環境人材として活躍できる仕組みを検討する。

具体的行動の提案

- ・地域で今取り組んでいることが交流につながるよう無理のない少しの工夫の検討
- ・都市部企業に豊かな自然環境の中での研修プログラムの提案

- ・単なるイベントで終わるのではなく持続可能性の確保という視点を持つ
- ・市内の小中学校の中で連携できるような体制づくり
- ・大学生ボランティアの積極的活用
- ・体験観光など、何かメリットをつけた保全活動の実施

(会議委員) 五十音順

| 名前 | 所属等 |
|--------|----------------------|
| 池田 恭子 | 真庭市交流定住センター |
| 池田 義 | 蒜山の川と魚の会ネットワーク |
| 伊藤 國彦 | 岡山県立大学名誉教授 |
| 植木 崇雄 | 有限会社植木材木店 |
| 氏平 雄人 | うじひら木材産業株式会社 |
| 大美 康雄 | 真庭・トンボの森づくり推進協議会 会長 |
| 川原 洋平 | 服部興業株式会社 |
| 古南 洋一 | 農業 |
| 酒井 みのり | 岡山県立大学デザイン学部3年生 |
| 坂本 信広 | プランニングオフィス蛸 |
| 澤山 祥子 | 真庭リユースプラザの会 |
| 杉本 喜美恵 | 真庭市愛育委員 |
| 瀬島 義之 | 株式会社エイト日本技術開発 |
| 中村 妃佐子 | 真庭環境衛生管理株式会社 |
| 梨野 瑞貴 | 岡山県立大学デザイン学部3年生 |
| 西本 孝 | 岡山県自然保護センター主任研究員 |
| 浜子 尊行 | おかやまオオサンショウウオの会 |
| 松原 瑞浦 | 真庭バイオマス発電株式会社 |
| 丸山 純平 | 岡山県立大学大学院デザイン学研究科1年生 |
| 三浦 菜月 | 岡山県立大学デザイン学部4年生 |
| 三笹 大成 | 久世地区環境衛生協議会 会長 |
| 光重 有梨 | 岡山県立大学デザイン学部4年生 |
| 三村 聚 | 旭川中央漁業協同組合 組合長 |
| 宮林 英子 | 落合野鳥の会 会長 |
| 森下 眞行 | 岡山県立大学デザイン学部長 |
| 矢谷 珠子 | リサイクルプラザまにわの会 |
| 雪江 祥貴 | 津黒いきものふれあいの里 館長 |